

聖職候補生養成委員会 「召命研修会」を終えて

ゲオルギウス 松本俊悟

この度、神戸教区召命研修会に参加し、多くを学びました。

私も聖職や、特任聖職になりたいと思う人間の一人ですが、なかなか機会に恵まれない現状です。私のような、キリスト者になって6年そこそこのひよっこには、まだ荷が重いかもしれません。その中で、吉田先生は恩師に恵まれ、または、半ば強引に聖職になられた過去をお話くださ



いました。

また、クリスチャンホームに生まれなくても、主教という任に就けるのだと、吉田先生を通して知ることが出来ました。それは吉田先生が、人を通じて神様からの召命を受けたのだと思います。ご本人にとつては大変なご苦労だったと推察致しますが。

吉田先生は講話の中で、エレミヤ書第1章1節から10節のお話をされました。「若者にすぎない」などと自分を卑下するようなことを言っているのではないと、神はエレミヤに語っておられます。たとえそれが聖職であろうと信徒だろうと、宣教をする上ではこの箇所はとても重要な意味を持つていると思います。その後、ギリシア語の講義のようなお話をし、「繋がり、交わり」という言葉を

深く考えることができました。私が聖職を目指したい、教会の手助けをしたい、それは果たして交わりの中で出した答え、目標なのだろうか？

聖公会に限らず、現在日本のクリスチャンは人口の1%未満と少数です。その中で私は何をしたいのか。キリスト者として宣教、伝道をするのであれば、肩書などなくても行動で示せばよいでしょう。

はたまた、言い方が正しいか分かりませんが、聖職という免許を貰って、見栄やエゴで聖職を目指しているのではないだろうか？また、所属している教会を支えるだけならば、平の信徒でも可能なことです。私に与えられた、神様がお考えになるミッションとは何なのだろうか、自問する毎日です。

今回の召命研修会に参加された皆さんは、どの様な考えでいらっしやったのでしょうか。今所属している信徒の皆さんは、私のことをどのように思われているのでしょうか。

そういった信徒との交流、交わりの中から、時には人の口から神のみ言葉を聴くこともございましょう。ただ一つ言えるのは、「キリスト者であつて良かった」と思つて頂き、「キリスト教に興味はあるけど二の足を踏んでいる」とそういった皆さんの手助けをしたいと思います。出過ぎた願いかもしれませんが、今の私にはそれが私の行うべきことなのだと思います。

また、海外では当たり前になっていることなのですが、無償奉仕で聖職の手助けをする「特任聖職者」の方々が多くいらっしやいます。日本聖公会も考えを柔軟にし、特任聖職者を増員する努力はするべきだと、吉田先生は警鐘を鳴らしておられました。キリスト者の中でも、より多くの人々が活躍できる環境づくりもまた、目下の課題なのだと愚考致します。

この度はとても実りのある場に参加させて頂き、ありがとうございました。

(神戸昇天教会 信徒)

**皆それぞれ
応えあおう。神様に
結ばれた者だから**

神戸教区聖職候補生養成委員会では、これまで「召命黙想会」を、主に修道会や祈りの家などで開催してきました。今年も「召命研修会」を9月18日(月・祝)に神戸聖ミカエル大聖堂で、講師にヨハネ吉田雅人主教(前東北教区主教)をお迎えして行いました。当日は50名が参加しました。

今まで「召命黙想会」というと、将来、聖職および伝道師を目指したいと思う人や関心のある人が対象となつておりましたが、その対象を広げて、神様につながり、神戸教区につながり、教会につながる私たちが共に集う機会がこの度の企画です。その中で、参加された方々が、自身の召命(神様からの呼びかけ)を思い巡らし、改めて神様との交わり、人との交わりを喜べる機会となつたのではないかと思います。

(聖職候補生養成委員会)